第 33 回 伏見・桂川出張所管内
河川レンジャー運営会議（R4.2.16）
資料－1

淀川管内河川レンジャー代表者会議開催の報告

1. 第 26 回代表者会議

令和 3 年 12 月 12 日（日）に開催された第 26 回淀川管内河川レンジャー代表者会議（以下「代表者会議」という）において、審議、決定された事項等について報告を行います。

1.1. 講座の開催と新規河川レンジャープレゼンテーション審査について

1.1.1. 淀川発見講座とレンジャー養成講座の開催

令和 3 年度においては、新型コロナウイルス感染症対策による影響から、講座を延期し、以下の日程で淀川発見講座およびレンジャー養成講座を開催しました。

表 1.1 令和 3 年度 講座開催日程

講座等		日　程	会場
受講生募集（淀川発見講座）		～ 5 月 20 日（木）	
淀川発見講座	大阪会場	6 月 5 日(土)	オンライン開催
	京都会場	6 月 6 日(日)	オンライン開催
受講生募集（レンジャー養成講座）		～ 8 月 31 日(火)	
レンジャー養成講座	1 日目	10 月 24 日(土)	オンライン開催
	2 日目	10 月 30 日(土)	さくらであい館
	3 日目	11 月 6 日(土)	中央流域センター

※予備日なし

【講座開催状況】

淀川発見講座「河川レンジャーの概要」

養成講座 1 日目「河川の水質調査」

養成講座 2 日目「水辺の安全」

養成講座 3 日目「川活動のノウハウ」

1.1.2. プレゼンテーション審査の実施

代表者会議において、講座を修了し、河川レンジャーを希望する審査申請者８名によるプレゼンテーション(「河川レンジャーとして行いたい活動」の発表５分／質疑５分)と審査（非公開）が行われ、8 名の方々が新規河川レンジャーとして推薦されました。

表 1.2 令和 3 年度 河川レンジャー展開計画及び河川レンジャー推薦者（敬称略）

活動区域	令和３年度 展開計画の人数	申請者数	新規レンジャー推薦者 (敬称略)
淀川－１（福島出張所管内）	１名	１名	牧野（まきの）　高輝（たかてる）
淀川－２（毛馬出張所管内）	１名	１名	松田（まつだ）　正浩（まさひろ）
淀川－３（高槻出張所管内）	４名	２名	竹本（たけもと）　克巳（かつみ）
			林（はやし）　浩平（こうへい）
宇治川（伏見出張所管内）	１名	１名	中野（なかの）　清（きよし）
桂川（桂川出張所管内）	３名	１名	寺田（てらだ）　愼一（しんいち）
木津川（木津川出張所管内）	２名	２名	川口（かわぐち）　恭子（きょうこ）
			長浜（ながはま）　卓摩（たくま）
合　計	12 名	８名	８名

1.2. 試行河川レンジャー再任について

試行河川レンジャー再任審査は、試行期間の活動状況、河川レンジャーへの推薦時に代表者会議より通知された試行期間の留意事項に対する実践状況及び再任された場合の次年度年間活動計画（案）の内容を確認し、再任の可否を決定することが目的です。審査において再任が決定した場合は、所属する運営会議において、河川レンジャーに再任されます。なお、審査において再任されなかった場合は、本人の希望に応じて「河川レンジャーサポーター」※に登録し、1年間のサポーター活動において一定の条件を満たした場合のみ、1回限りで「河川レンジャー再チャレンジ審査」を受けることができます。

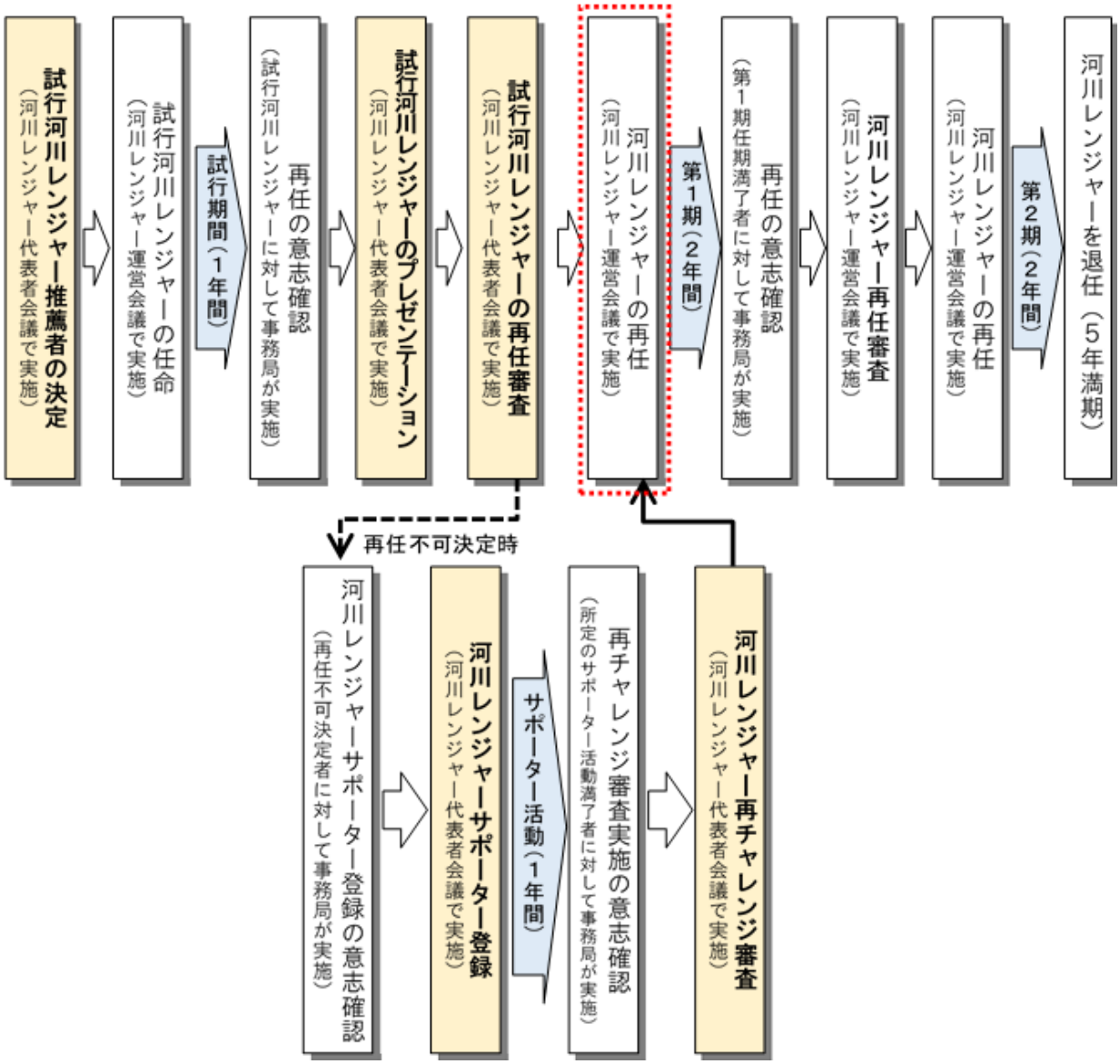


図 1.1　試行河川レンジャーの再任審査の流れ

※制度の見直しを行いました。詳しくは次項（8ページ）に記載します。

令和元年度に河川レンジャーに任命された 6 名を対象に再任審査を実施しました。

審査の結果、5 名の試行河川レンジャーが再任されました。

試行河川レンジャーの試行期間は、再任審査の延期に伴い、本来よりも 1 年長い 2 年間(令和 2 年 4 月 14 日~令和 4 年 3 月 25 日)となりました。

それに伴い、河川レンジャーの第 1 期は、本来の 2 年間から 1 年間に短縮します。

通算任期（約 5 年）は変更しませんので、任期満了は令和 6 年度（令和 7 年 3 月末）です。

表 1.3 試行河川レンジャー再任者一覧

所属運営会議	所属出張所	氏名
福島・毛馬出張所管内	福島出張所	桑村（くわむら） 和男（かずお）
枚方出張所管内	枚方出張所	道場（みちば） 明子（あきこ）
高槻出張所管内	高槻出張所	杉本（すぎもと） 真一（しんいち）
伏見・桂川出張所管内	伏見出張所	居原田（いはらだ） 晃司（こうじ）
木津川出張所管内	木津川出張所	中尾（なかお） 博（ひろし）

（敬称略）

2.　第 27 回代表者会議

令和 4 年 2 月 10 日（木）にオンラインで開催された第 27 回代表者会議において、審議、決定された事項等について報告を行います。

2.1.　試行河川レンジャー再任審査の延期について

代表者会議において予定されていた試行河川レンジャー再任審査について、プレゼンテーション（発表・質疑応答）を伴う審査は、オンライン会議には適さないと考え、十分に活動できていない試行河川レンジャーの活動状況もふまえ、**次年度上半期の代表者会議（令和 4 年 8 月）に延期**することが決定しました。

本来の試行期間の任期は、令和 4 年 3 月 31 日であり、審査の延期により任期に空白期間が生じます。そのため、代表者会議の開催日に応じて**試行期間を延長**して審査延期に対応します。運営会議からは、試行河川レンジャーに、追加する期間の任命書を発行します。

なお、通算任期（約５年）は変更しませんので、任期満了は令和 7 年度（令和 8 年 3 月末）です。

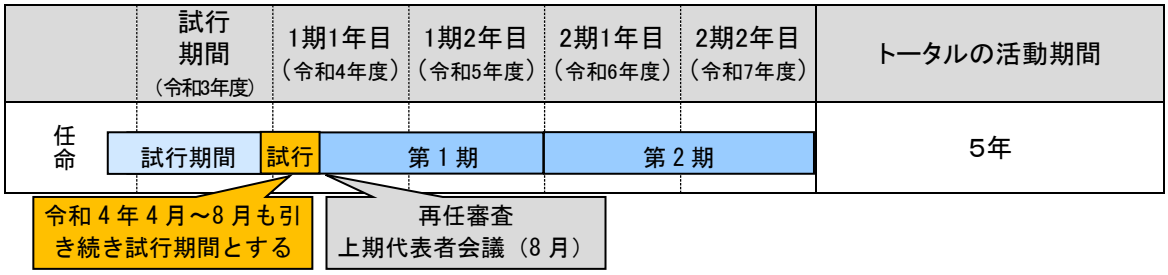


図 2.1　河川レンジャーの任期

表 2.1　審査が延期となる試行期間の河川レンジャー

所属運営会議	所属出張所	氏名
福島・毛馬出張所管内	福島出張所	山本（やまもと） 雅彦（まさひこ）
	毛馬出張所	岸田（きしだ） 俊徳（としのり）
枚方出張所管内	枚方出張所	嘉内（かない） 寿（ひさし）
		福川（ふくかわ） 妃路子（ひろこ）
伏見・桂川出張所管内	伏見出張所	奥平（おくだいら） 吉照（よしてる）
		中村（なかむら） 恵子（けいこ）

2.2. 河川レンジャーの辞任について

淀川管内河川レンジャー（試行）運営要領第 24 条 4 項に則り、谷口レンジャーの辞任が確認されました。

	所属 運営会議	所属出張所	氏名	任命日	辞任日
河川レンジャー (試行期間)	福島・毛馬出張所管内	毛馬出張所	谷口（たにぐち）　正子（まさこ）	令和 3 年 2 月 22 日	令和 4 年 1 月 20 日

（敬称略）

2.3. 特例再任者の決定

河川レンジャーの特例再任については、河川レンジャーの任期（5 年）を満了し、再任の意志がある者を対象として審査が実施されます。河川レンジャー運営会議（以下「運営会議」という）及び淀川河川事務所長が、運営要領に定めた要件を満たす方を特例再任者として代表者会議に推薦し、代表者会議において決定します。

運営要領第 26 条の規定に基づく代表者会議による審査の結果、下記のとおり 2 名の河川レンジャーについて 1 期 2 年の再任が決定しました。

表 2.2 河川レンジャー特例再任者一覧

所属運営会議	所属出張所	氏名
伏見・桂川出張所管内	桂川出張所	南良（なら）靖雄（やすお）
木津川出張所管内	木津川出張所	中西（なかにし）　佳代（かよ）

（敬称略）

2.4. 令和 2 年度の点検結果とりまとめの決定

「淀川管内河川レンジャー点検結果とりまとめ」は、河川レンジャーが**活動のステップアップ**を着実に進めることに寄与するとともに、河川レンジャー**制度の進捗点検の充実**を図ることを目的としています。

そのため、取り組みの主体である**河川レンジャーが活動の結果を自ら確認し、成果と課題の分析を行い、活動の改善に反映**していくとともに、その結果を利用し、淀川水系流域委員会の意見を聴きながら河川レンジャー制度の進捗を点検できるよう、**河川レンジャーの目的達成度や効果等に関する点検**が、専門家会議及び代表者会議において毎年実施されています。

今回は、過去 5 年間分のデータ（点検を始めた平成 28 年から令和 2 年度まで）から、
図 2.2 に示す項目（指標）について点検を行いました。

点検の結果、指標ごとに表 2.3 に示す課題を抽出しました。

区 分	指 標
定量的点検項目	①活動回数と参加者数等
	②貢献分野
	③活動の充実度･定着度、地域･河川事業への貢献度
	④活動範囲
定性的点検項目	⑤活動の充実度･定着度、地域･河川事業への貢献度を上げる取り組み内容
	⑥目標等に対する達成状況
	⑦複数の分野への波及貢献状況
	⑧河川レンジャー毎の活動の特色

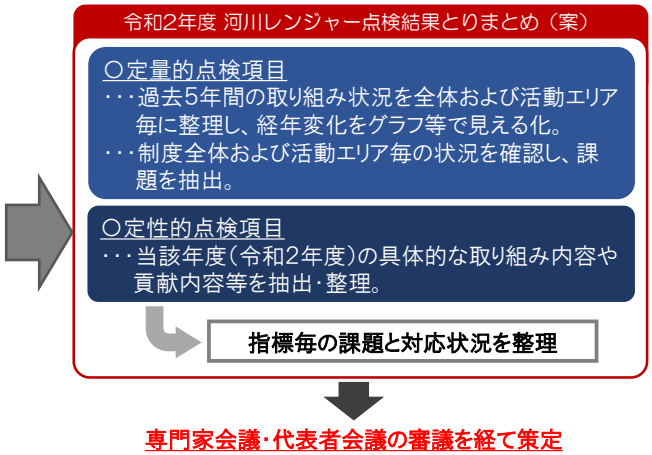


図 2.2　点検結果のとりまとめイメージ

表 2.3　指標ごとの課題

指標	課題
①活動回数と参加者数	・河川レンジャーの人員（なり手やスタッフ）の確保 ・試行レンジャーをサポートする仕組みの確立 ・ボランティア参加希望者への対応
②⑦貢献分野	・更なる活動の質の向上 ・貢献度の低い『歴史・文化』分野の取り組みの強化
③⑤活動の充実度・定着度・地域・河川事業への貢献度	・河川事業に貢献する取り組みの強化 ・河川管理者と河川レンジャーやアドバイザーの効果的な連携
④活動範囲	・活動範囲の偏り（活動が行われていない地域）の解消と、流域全体での活動展開の促進
⑥目標等に対する達成状況	・目標設定と達成の基準について、河川レンジャー全体で共有が必要

2.5. 河川レンジャーサポーター制度の見直し

点検結果から抽出された課題を踏まえ、河川レンジャーの現状の課題に対する改善策を検討しました。

河川レンジャーの人員（なり手やスタッフ）の確保、試行レンジャーをサポートする仕組みの確立、ボランティア参加希望者への対応として、既存の「河川レンジャーサポーター制度」の見直しについて審議し、制度を改良することが決まりました。

「淀川かわづくりパートナー（仮称）」という名称で、令和 4 年度から運用することが決定しました。

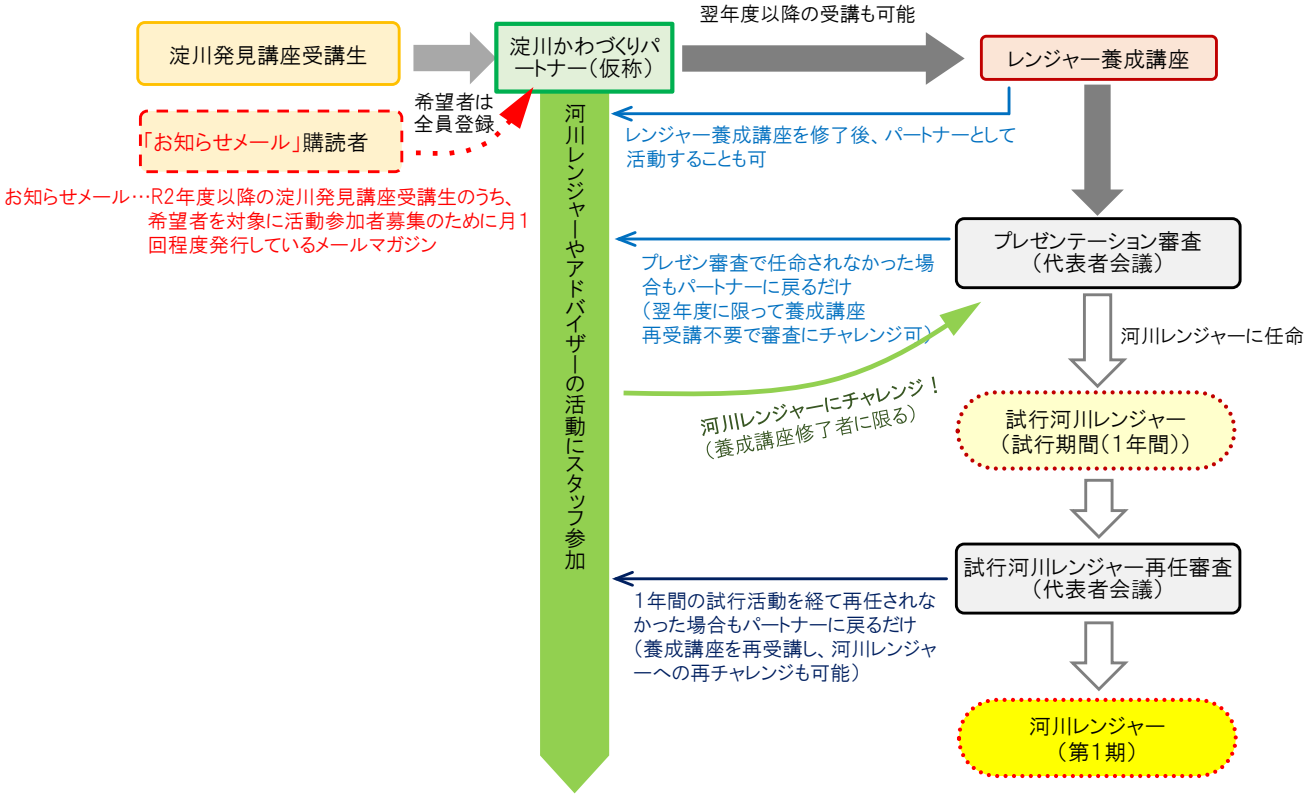


図 2.3　淀川かわづくりパートナー（仮称）の概要

2.6. 河川レンジャー活動等の課題への対応について

点検結果から抽出された河川レンジャー活動等の課題（更なる活動の質の向上、貢献度の低い分野や河川事業に貢献する取り組みの強化、活動範囲の偏りの解消と流域全体での活動展開の促進、河川レンジャーのなり手の変更に応じた育成方法の確立、河川管理者と河川レンジャーやアドバイザーの効果的な連携、河川レンジャーの認知度の向上）を踏まえ、「河川事業との連携の強化」、「河川レンジャー活動の充実」、「河川レンジャーの認知度や社会的評価を高める取り組み」という方策について意見交換を行いました。

意見交換の結果、提案された改善策を実践していくことの必要性について委員から発言がありました。

代表者会議において提案された具体的な方策を以下に示します。

①「流域治水」「グリーンインフラ」「ミズベリング」等の新たな施策との連携

【基本的な考え方】

- 気候変動の影響等を踏まえた「流域治水」への転換や、環境保全等を踏まえた「グリーンインフラ」の推進など、社会情勢の変化に応じた新たな河川事業・施策との連携を進め、河川レンジャー活動の更なる質の向上を図る。

■連携イメージ（1／3）

流域治水

【具体的な連携方針（案）】

現在、河川レンジャー活動で進めている各種『出前講座』や『マイ・タイムライン講習』『マイ防災マップ作成活動』『防災スクール』などの治水・防災分野の既存活動において、"淀川水系流域治水プロジェクト"の周知を図るコンテンツを追加するとともに、必要に応じて流域治水にかかる意見聴取を行うなど、河川事業への更なる貢献に繋がる連携を検討する。

●「流域治水」との連携を検討する治水・防災分野の活動事例

防災学習会「マイ・タイムラインづくり」

水防災講座マイ・タイムライン

八幡小学校出前授業

■連携イメージ（2／3）

グリーンインフラ

【具体的な連携方針（案）】

令和3年度に淀川河川レンジャーとしてグリーンインフラ官民連携プラットフォーム（三号会員）への登録を行っており、今後はこの登録を足掛かりに、プラットフォームでの情報交換などを進めるとともに、社会的評価を高める取り組みとして「グリーンインフラ大賞」への応募・受賞を目指す。

また、三島江地区切り下げ地での再樹林化防止の取り組みや、各種ワンドの利活用に向けたワーキングの開催、淀川河川公園大塚地区整備計画のより良い実現に向けた取り組みなど、淀川河川事務所管内のグリーンインフラに関わる活動を推進していく。

～グリーンインフラプラットフォームの会員数（R3.6.30時点）～
一号会員：都道府県および市町村（会員数　75）
二号会員：関係府省庁　（会員数　9）
三号会員：民間企業、学術団体等（会員数　343）← 淀川河川レンジャー登録済み
四号会員：個人　（会員数　704）

●「グリーンインフラ」と関連する活動事例

三島江地区切り下げ地の再樹林化防止の取り組み・・・樹木伐採やモニタリングの実施、伐採した樹木の木工クラフトワークショップでの利活用など

淀川河川公園大塚地区整備計画のより良い実現に向けた取り組み・・・住民・行政協働による堤防植生の転換やワーキングの開催など

■連携イメージ（3／3）

ミズベリング

【具体的な連携方針（案）】
新しい水辺の活用の可能性を切り開くための官民一体協働プロジェクトである「ミズベリング」について、河川レンジャー活動の中でも河川敷や水辺・水上を利活用する活動での連携・協力を検討するとともに、ミズベスクール等の河川管理者が主催するイベントへの参加など、「ミズベリング」を通した河川事業との連携、河川レンジャーの認知度の向上などを目指す。

●河川敷や水辺・水上を利活用した活動事例

バッタのオリンピック

伏見クルーズガイド協力

ミズベスクール（近畿地方整備局主催で年1回開催）

参考　～ミズベリングと河川レンジャーとの過去の連携実績～

2015年10月に実施された『ミズベリング世界会議in大阪』における「ミズベワークショップ Table2：全国水都ネットワークチーム」に河川レンジャーの原氏が参加。
また「セッション3」にてグループ河川レンジャーの小林氏がプレゼンテーションを実施。

ミズベワークショップ

② 淀川河川事務所と河川レンジャーやアドバイザーとの連携の強化

【基本的な考え方】

- 淀川河川事務所における様々な事業実施段階における住民意見の聴取やニーズの抽出などに際して、河川レンジャーやアドバイザーの支援方法等をとりまとめた職員向けマニュアルを作成するなど、淀川河川事務所全体で河川レンジャーやアドバイザーと効果的に連携、支援できるよう検討する。

■これまでの取り組み状況（1／2）

河川レンジャーが河川の課題等を把握し、河川管理者と連携しながら課題解決に向けた活動に取り組めるよう、出張所と連携した「意見交換会」や現地での情報収集等を目的とした「河川の状態把握ウォーキング」などを実施。

●意見交換会

個々の河川レンジャーの実施計画書をもとに出張所毎に意見交換会を開催。

意見交換会（令和3年度オンライン開催）

●河川の状態把握ウォーキング

意見交換会での河川レンジャーや出張所の意見等をもとに、課題があると考えられる場所を実際に歩き、課題マップを作成するなど、課題解決に向けた取り組みを展開。

状態把握ウォーキング（令和3年度）

＜課題解決に向けた取り組みフロー＞

	勉強会等	実施内容
事前学習（情報収集）	河川レンジャーを対象とした勉強会	河川レンジャーについての基本的な内容を学習
	活動学習会	定例会議において河川の課題について議論
	河川事務所職員を対象とした説明会	レンジャー制度、仕組み、今年度と取り組み等を説明
河川の課題等の把握	意見交換会	河川の課題を抽出（河川レンジャー・河川管理者）
	河川の状態把握ウォーキング	河川の課題を現地で把握（河川レンジャー・河川管理者）
	活動の試行	必要に応じて活動を試行
解決に向けた活動検討	意見交換会	課題に対応する活動を検討（河川レンジャー・河川管理者）
	活動計画の作成	検討結果を踏まえ、河川レンジャー自らが活動計画を作成

① 河川レンジャー育成プログラムのブラッシュアップ

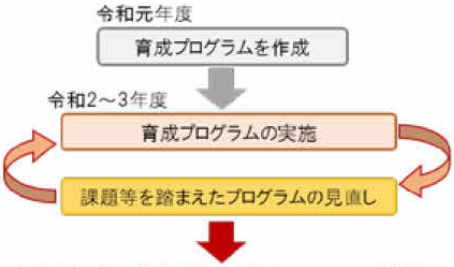
【基本的な考え方】

- 試行レンジャーや淀川ボランティアについても継続的に育成が図られるよう、現在構築中の「育成プログラム」の充実を図る。

■育成プログラムの実施状況

令和元年度に「育成プログラム」を作成して以降、令和2年度、令和3年度において＜実施（試行）～課題の抽出～プログラムの見直し＞のサイクルによるブラッシュアップを進めており、令和4年度以降においても新たな課題等を踏まえながら、更なる充実を図っていく。

PDCAサイクルによるブラッシュアップ状況



●河川レンジャー育成プログラム（令和3年度時点見直し版）

段階	河川レンジャーの課題	具体的な研修内容
基礎	河川レンジャーの役割理解	①新規レンジャー勉強会 ②河川レンジャーの理念学習 ③河川整備計画の学習
	活動スキルの取得	①リスクマネジメント学習（実技） ②計画書作成支援 ③活動分野毎の技術研修（実技）
応用	川の課題把握	①川の課題把握ウォーキング（実技） ②ワンドの保全・再生学習 ③維持管理研修
	地域と連携した活動の実施	①地域とのつながりづくり
発展	目的に沿った活動の計画	年間活動計画の立案の学習

② 新しい活動・連携手法の検討

【基本的な考え方】

- コロナ禍においても工夫を凝らし、web活動など、新たな活動の展開を進める。
- 新しい活動や連携を促進するような活動支援を行う。

■新しい活動の実施

●河川管理施設紹介動画の作成・公開

河川レンジャー目線での河川管理施設の紹介動画の作成・公開など、YouTube再生回数からも関心の高さが伺える活動の推進を図る。

枚方水位観測所紹介動画

●ICTを活用した取り組みの推進

ICTの活用によって、物理的に参加が難しい層が参加できるようにする取り組みや、時間的制約を最小化する取り組みなど、コロナ禍でも実施可能な活動を拡大・推進する。

左：オンラインワークショップ／右：バーチャル歴史探訪（枚方管内）

■多様な連携の推進

●SDGsの推進と企業連携

企業等が開催するSDGsイベントやワークショップへの参加など、SDGsの達成支援と企業連携の取り組みを図る。

大阪市内の百貨店で開催されたSDGsイベントへの参加（令和3年度）

●河川レンジャーと企業、学校等のコラボ

企業のCSRとの連携による清掃活動や河道内竹林伐採活動や、大学が運営するボランティアセンターとの連携、学校のクラブ活動への協力など、河川レンジャーと企業、学校がWin-Winの関係となる取り組みを進める。

枚方管内で実施されている「点野みんなの水辺づくり」（令和3年度）

① 活動成果の発信

【基本的な考え方】

- 河川レンジャーの存在意義を更に高めることを目的として、社会的評価を高め、認知度の向上にも結び付く『グリーンインフラ大賞』『日本水大賞』などのコンペティションや、『川ごみサミット』『いい川・いい川づくりワークショップ』などのシンポジウム・ワークショップ等の交流会への応募・参加を進める。

■応募が検討されるコンペティションや交流会事例（1／2）

	タイトル	主催者等	応募する際の活動例
1	日本水大賞	日本水大賞委員会、国土交通省	[公募] 淀川管内河川レンジャー全体の組織や活動
2	地域づくり表彰	国土交通省、全国地域づくり推進協議会、一般財団法人国土計画協会	[都道府県からの推薦] 淀川管内河川レンジャー全体の組織や活動
3	防災まちづくり大賞	消防庁	[公募] マイ防災マップ作成活動、マイ・タイムライン講習、出前授業など
4	ふるさとづくり大賞	総務省	[都道府県からの推薦] ジュニア河川レンジャーなど

※都道府県からの推薦が必要なコンペについては、大阪・京都府で地域に根付いた活動が対象

日本水大賞

2019年表彰式・受賞活動発表会

出典：日本水大賞ホームページ

防災まちづくり大賞

出典：消防庁ホームページ

ふるさとづくり大賞

出典：総務省ホームページ

② 広報・PRの強化

【基本的な考え方】

- 現在使用している複数メディアやSNSの活用を更に進めるとともに、新たな展開として、淀川河川事務所が広報したい事業内容等と河川レンジャーが把握している住民ニーズをマッチングした動画による広報・PR（YouTube内の河川レンジャーチャンネルでの公開等）を進める。
- 社会的評価を高める取り組み内容（ｺﾝﾍﾟﾃｨｼｮﾝへの参加結果等）に加え、令和2年度の大阪市環境表彰／京都府環境保全功労者表彰の受賞などのように、河川レンジャーやアドバイザーによる表彰実績等にもスポットを当てた効果的な広報・PRを進める。

■これまでの取り組み状況

●河川レンジャーWebサイトのリニューアル

←利用者層別入り口の確保
・・・活動参加希望者や講師派遣希望者など、一般のサイト閲覧者に加えて企業や学校などに向けたコンテンツを追加

←SNSとの連携強化
・・・Facebookタイムラインの埋め込み、リンクボタンの配置など

●SNS（Facebook／Instagram）による広報・PR

Facebook

Instagram